

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア


















インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		6/8 （6/1との比較）	6/8 （6/1との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	2.32% （+0.07）	84.74円 （+0.20%）	+2.3% 2018年1Q	1.25%	発表された雇用者数や住宅着工件数が市場予想を下回る結果となったものの、正規従業員時給が市場予想を上回る結果となったことから、7月利上げの可能性が高まり、カナダドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。	住宅指標などが発表予定。カナダの住宅市場はタイトな状況が続いており、住宅指標の結果には注意が必要。米国の利上げが確実視され主要国の金利が落ち着く中、債券・為替市場はともに概ねレンジ内での推移を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ブラジル 	BB-	10.15% （+0.39）	29.54円 （+1.57%）	+1.2% 2018年1Q	6.50%	発表されたIPCA（消費者物価指数）は市場予想を上回る結果。中銀があらゆる手段を用いて、自国の通貨を守る姿勢を示したことなどから、レアルは対円で上昇。国債利回りは上昇。	小売売上高などが発表予定。大統領選挙に対する不透明感が根強くあるものの、中銀や財務省などが、市場への介入を辞さないとの声明を出したことなどから、債券・為替市場はともに下値は限定的と予想。
	Ba2	 金利低下		 景気回復	 据え置き局面		
メキシコ 	A-	7.85% （+0.01）	5.40円 （▲1.68%）	+1.3% 2018年1Q	7.50%	発表されたCPI（消費者物価指数）は市場予想を上回ったものの、低い伸び率。G7首脳会談での通商問題への先行き懸念や、不透明感の続く大統領選挙などから、メキシコペソは対円で下落。国債利回りは小幅上昇。	鉱工業生産などが発表予定。G7首脳会談で、通商問題の進展が見られなかったことや、大統領選挙への不透明感が漂うことから、債券・為替市場はともに上値の重い展開を予想。
	A3	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		6/8 （6/1との比較）	6/8 （6/1との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	2.78% （+0.07）	83.26円 （+0.46%）	+3.1% 2018年1Q	1.50%	中銀は金融政策決定会合で、政策金利の据え置きを決定。発表されたGDP（国内総生産）が市場予想を上回る結果となったことから、豪ドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。	中銀総裁の講演や雇用統計などが発表予定。国内のイベントだけでなく、FOMC（米連邦公開市場委員会）やECB（欧州中銀）理事会などのイベントにも注意が必要。債券・為替市場はともに概ねレンジ内での推移を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ニュージーランド 	AA+	2.82% （+0.07）	75.13円 （+0.28%）	+2.9% 2017年4Q	1.75%	発表された乳製品入札や住宅価格などは、前回比弱めとなった一方、求人広告件数や商品価格などは強めの結果。グローバルな円安の地合いを受け、ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。	製造業活動や住宅売上高、食料品価格などの経済指標が発表予定。安定した景気状況を示し、金融政策等への影響を与える内容とはならない公算。債券・為替市場はともに海外市場を見ながらの一進一退の展開を想定。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.85% （+0.06）	13.60円 （+1.66%）	+0.3% 2018年1Q	0.50%	発表された経常収支は、黒字幅が拡大し、良好な内容となった一方、鉱工業生産は総じて弱めの結果。グローバルな円安の地合いを受け、ノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは上昇。	CPIなどが発表予定。総じて底堅い景気状況が想定される中、夏以降に実施が示唆されている利上げへの影響等に注視。海外市場に影響を受けつつ、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 利上げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		6/8 （6/1との比較）	6/8 （6/1との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB+	8.28% （+0.26）	8.38円 （▲2.88%）	+0.8% 2018年1Q	6.50%	発表されたGDPや製造業生産などが、市場予想を下回る結果となったことなどによる先行き不透明感から、投資家がリスク回避姿勢を示し、ランドは対円で下落。国債利回りは上昇。	小売売上高や鉱物生産量などが発表予定。1-3月期GDPが予想外の結果となる中、国内経済の動向には注目。市場全般に新興国資産に対する警戒感が残ることなどから、債券・為替市場はともに上値の重い展開を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
インドネシア 	BBB-	7.02% （+0.19）	0.78円 （▲0.86%）	+5.1% 2018年1Q	4.75%	発表された外貨準備高は減少。消費者信頼感指数や製造業PMIは前月からやや改善した一方、CPIは鈍化。米ドル高や米国金利上昇への警戒感が根強い中、国債利回りは上昇。ルピアは対円で下落。	特段重要な経済指標等の発表はなし。断食明け大祭などの大型連休により休場。米ドル高や米国金利上昇への警戒感が根強い中、国債利回りは上昇しやすい地合いを予想。ルピアは引き続き底堅く推移する見込み。
	Baa2	 金利上昇		 景気拡大	 利上げ局面		
インド 	BBB-	8.08% （+0.14）	1.62円 （▲0.65%）	+7.7% 2018年1Q	6.25%	中銀は金融政策決定会合で、政策金利の引き上げを決定。中銀が政策スタンスを中立に維持したことにより、週後半にかけて値は戻したものの、週全体を通して、インドルピーは対円で下落。国債利回りは上昇。	CPIや鉱工業生産、貿易収支などが発表予定。原油安や軟調なルピーの推移による輸入インフレ圧力への懸念などから、貿易収支の結果には注意が必要。債券・為替市場はともに概ねレンジ内での推移を予想。
	Baa2	 金利上昇		 景気回復	 据え置き局面		

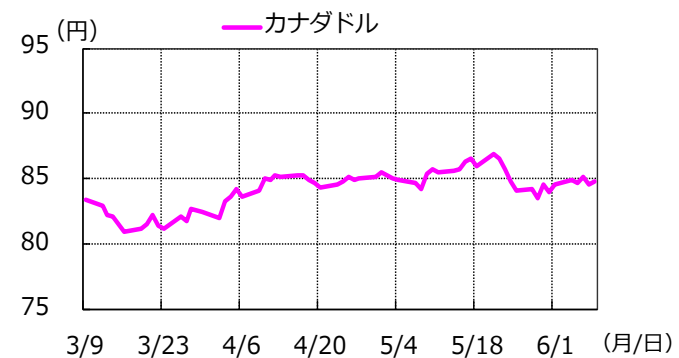
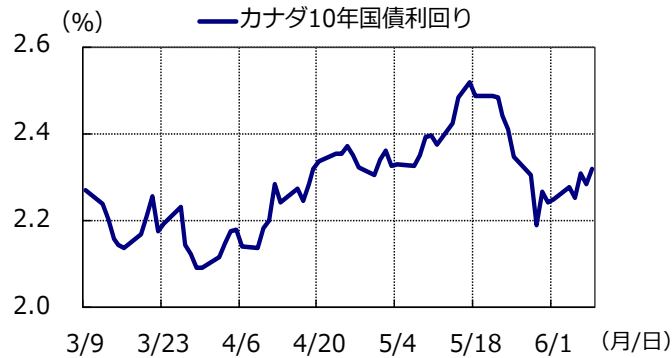
出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
- ※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

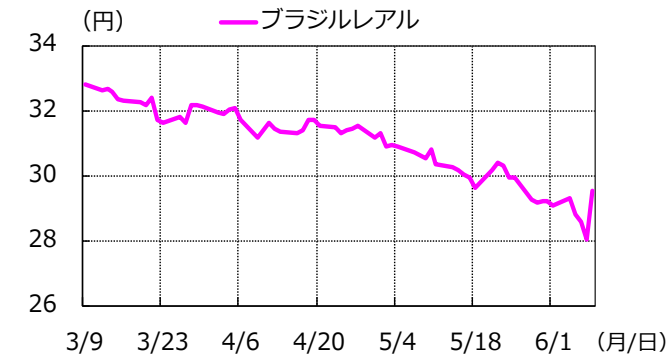
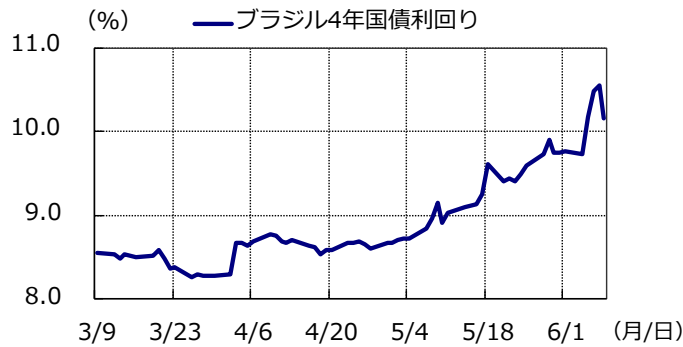
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/3/9～2018/6/8

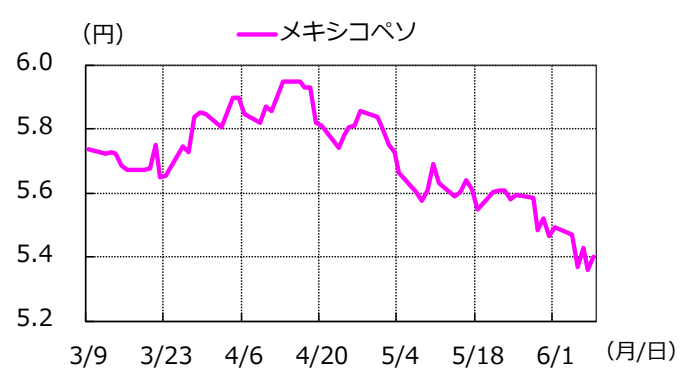
カナダ



ブラジル



メキシコ

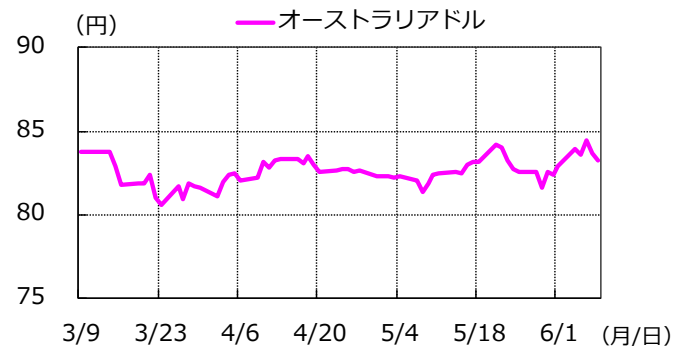
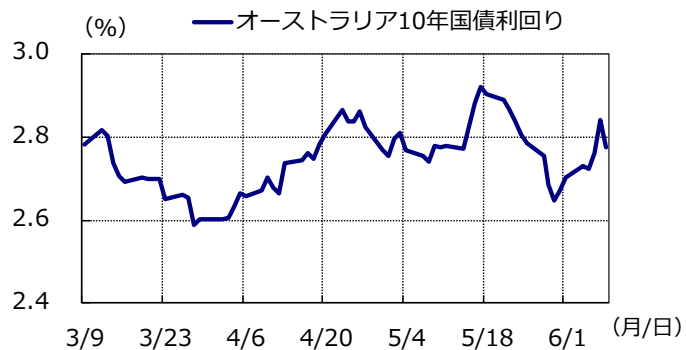


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

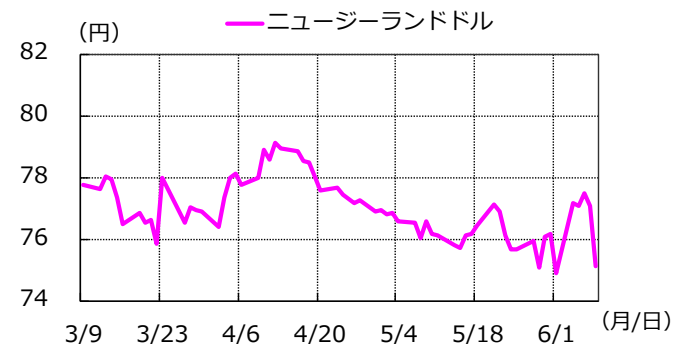
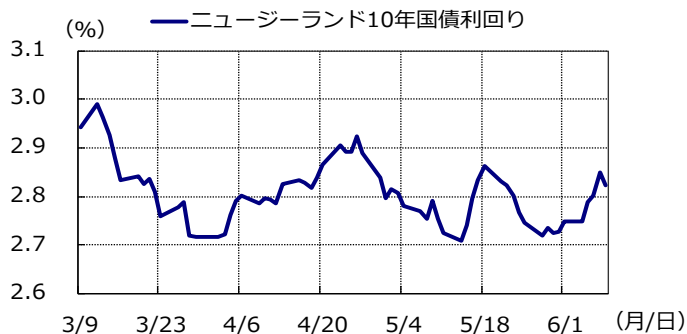
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/3/9～2018/6/8

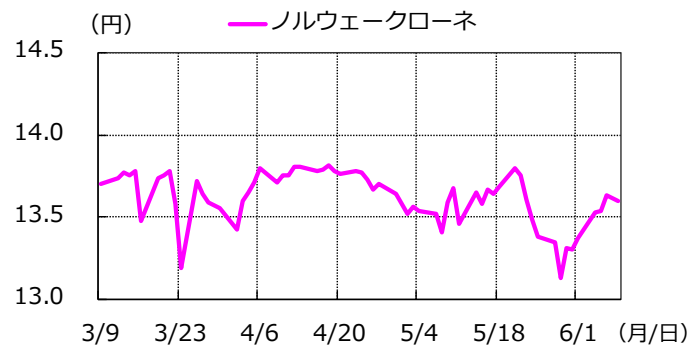
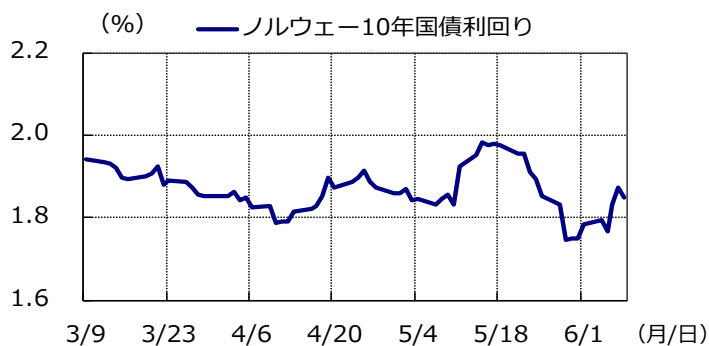
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

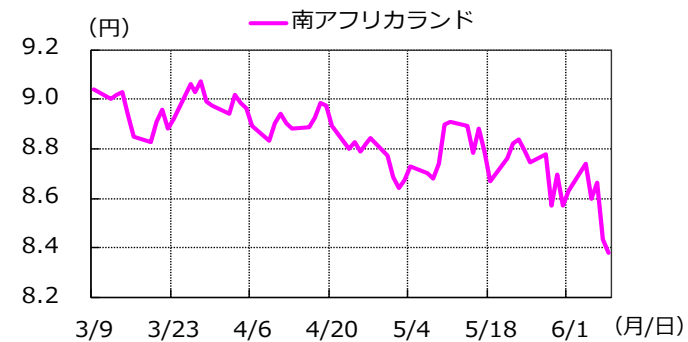
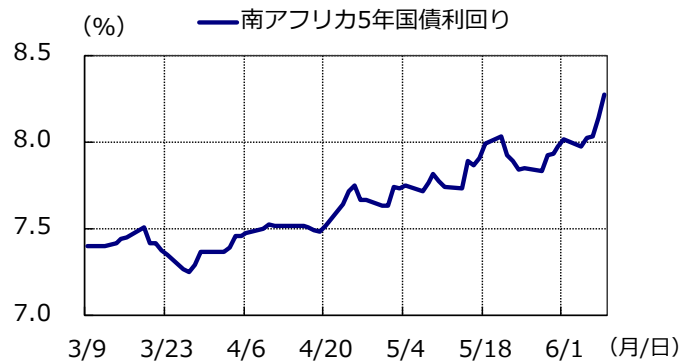


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバークのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

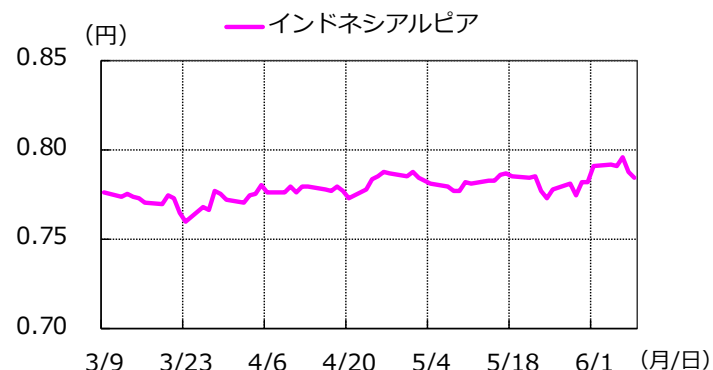
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/3/9～2018/6/8

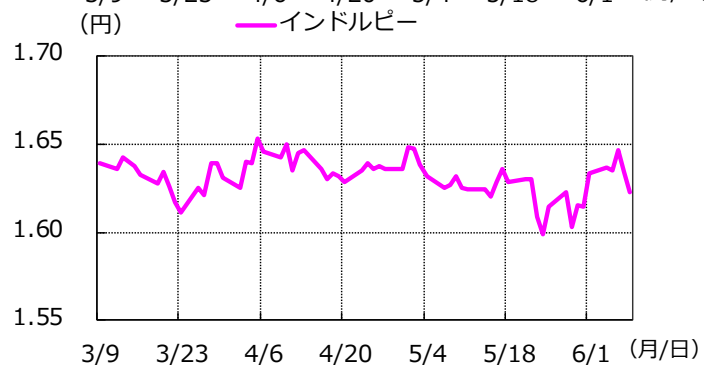
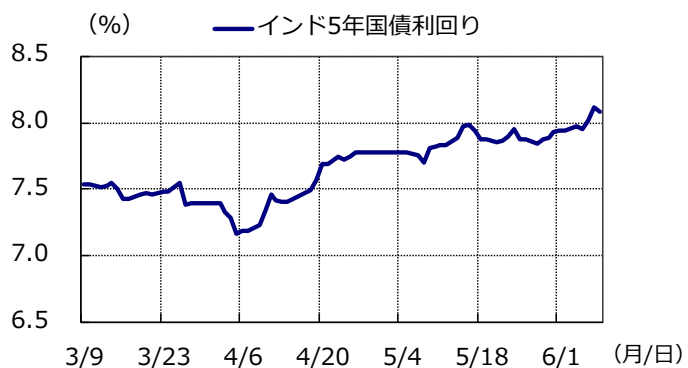
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。